ウツクシマツの管理について

湖南市教育委員会
氏 丸 隆 弘

Ⅰ．ウツクシマツについて

①はじめに

- ウツクシマツ自生地は、美松山の南東斜面一帯の面積約１．９haにあり、ウツクシマツ型の大小の松約１３０本が群生
- 大正１０年（1921）に国の天然紀念物に指定
- 古来より松の名所として知られ、浮世絵にも描かれている

自　生　地　全　景

ウツクシマツと多形松

②ウツクシマツとは

- 樹形は庭木として用いられる多形松に似ているが、同じ傘型でも樹形に変異があり、樹形は四形式に分類されている。
- マツの分類の品種名にウツクシマツが位置付けられており、ウツクシマツの俗称・園芸品種に多形松がある。

③ウツクシマツの樹形

Ⅰ．扇型（上方山形）

地際から1．5～2mのところで、幹がいくつかに分岐し、扇状となり、樹冠の上部が山形になる

Ⅱ．扇型（上方やや円形）

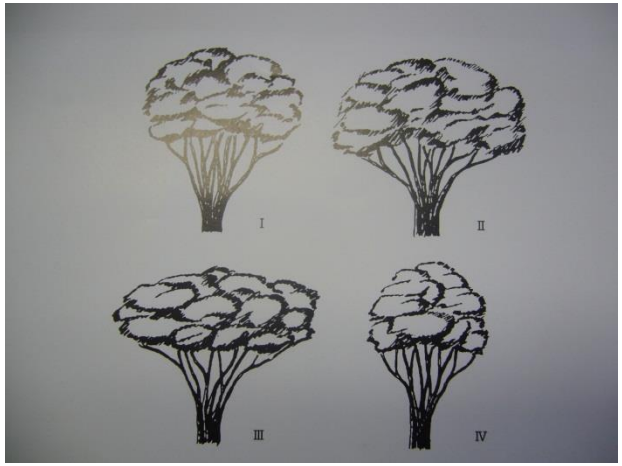
Ⅰと同型であるが、上方がやや円くなる

Ⅲ．傘型（多形型）

地際から幹が多数分岐し、樹冠は傘状に拡がる

Ⅳ．ホウキ型

幹の分岐のしかたはⅢと同じであるが、樹冠の拡がりがせまく全体がホウキ状となる



④ウツクシマツの謎

- かつて、ウツクシマツの特異な形態は特殊な土質による影響によるものと考えられてきた
- 平成14年（2002）に、太田明氏（元滋賀県森林センター）の研究によって劣性遺伝であることが判明した
- しかし、はじまりは不明

市立三雲小学校のウツクシマツ

市の公共施設にあるウツクシマツ

森　北　公　園

名神菩提寺SAのウツクシマツ

Ⅱ．保護増殖事業について

①経過

- 明治１５年（１８８２）以降有志の者が「美松保勝会」を組織
- 昭和３８年（１９６３）４月から「平松のウツクシマツ自生地保勝会」として活動
- 昭和５３年（１９７８）６月にマツクイムシの被害により数本が枯死する事態が発生

- 「天然記念物平松のウツクシマツ自生地保護対策委員会」（会長・北村四郎氏）を設置
- 昭和５４年（１９７９）から８年計画で国及び県の補助を受けて保護増殖及び調査研究を行った。

  ＊この時期よりグリンガードの樹幹注入を開始

・それ以後、マツクイムシによる被害は鎮静化していたが

↓

・平成６年（１９９４）より再びマツクイムシによる被害により数本が枯死する事態となった。また、周囲の普通の松が大きくなりすぎて前回補助事業で移植した松が生育を妨げられる状況になった

- 平成7年（1995）から9年計画で国及び県の補助を受けて間引きを中心とする保護増殖及び調査研究を行った。

↓

- 平成16年（2004）に「天然記念物平松のウツクシマツ自生地保存管理計画」を策定

②現状

・市内及び自生地周辺の山々は、平成13年（2001）から昭和53年（1978）頃の全国的にマツクイムシの被害が拡がった最悪の状態に近づいている

・自生地内は地上散布と樹幹注入の効果によって被害を最小限にくい止めている

・自生地内が普通の松で密集した状態となった原因は、昭和60年（1985）以前に枯死した松が集中している自生地の中央部分で、これまではウツクシマツ型の高齢木の下で日陰になっていたが、枯死した松の跡地は日当たりが良くなって、草や幼木（普通の松）の成育が早くなったことにある。移植樹も普通の松に覆われて枯れ出すようになった。

- また、昭和５４年（１９７９）に補助金を受けて保護増殖事業を実施して以降、自生地内の松は枯れても伐採出来ないという意識が浸透し、枝払い等の日常管理が不足していた。
- 自生地内では、天然更新木が育ちにくい状況で、戦前のように樹齢１００年程のウツクシマツ型の高齢木を伐採して世代交代を促すことは不可能

・現在は、樹幹注入で延命している感もあるが、保護増殖事業は、農林振興課とも連携を取りながら進めており、地元平松区からも協力していただいている。

↓

・新たな悩みも発生

新たな悩みのタネ

風による倒木

鹿　の　被　害

Ⅲ．再生事業について

①通年事業

〇病虫害予防駆除

［地上散布］

地上散布用乳剤を水で１５０倍に薄めて、１回当たり１０リットルを２回散布

［薬剤注入］

ショットワン・ツー液剤を松の樹幹に注入

○下草刈り

・自生地全体を年２回に分けて下草を刈っている

○補植樹移植

・平成8・9年（1996・1997）に種子を自生地から採集し、平成10年（1998）から苗畑で育成させた松を普通の松とウツクシマツ型の選定を行い、平成18年（2006）にウツクシマツ型の松32本を自生地に移植したが、鹿の被害によりあまり育たなかった。

・そして、平成22年（2010）にウツクシマツ型15本を自生地に移植した

自生地に移植したウツクシマツ

○補植樹育成

・平成24年度（2012年度）に地元平松長寿会が種を採集して自生地及び空き地等を利用して種（800粒）を蒔いて育ててもらっており、引き続いて種の採集と育成をお願いする。また、自生地内で天然更新している幼木を日当たりのよい場所に移植する。

・平成26年度（2014年度）から3年生ものを自生地に移植しており、継続して平成30年度（2018年度）まで引き続いて実施する。

種の採集と補植樹の育成

種　の　採　集

自生地での育成

育成畑（先の池畑）での育成

育成畑（下栄町畑）での育成

補植樹の移植

３年生を移植したウツクシマツ型

自生地から移植したウツクシマツ型

〇伐倒駆除処理

［古損木伐採］

　マツクシムシによる被害が発生した松については、早急に伐採し、自生地外へ運び出す

［間引き］

　普通の松を伐採し、自生地外へ運び出す

〇現地巡回指導

　川那辺三郎氏（京都大学名誉教授）による現地巡回をお願いしている

②今後の課題

- 継続した地元の協力体制の確保
- 松林の保護面での農林振興課サイドの協力や観光面での商工観光労政課サイドの協力が不可欠であり、事業を実施していく上で連携が必要

・過去に種子採集を実施して移植を行った松はひとつの型にしか育っていないが、これは種子採集を比較的実施しやすい低木の同じ型から行ったからと考えられており、地元の方からは普通の松が増えて昔の景観とかわったと言われるが、移植木が大きくなれば高齢木と幼木が共生する昭和60年（1985）以前の景観が蘇るようになると期待している

- 今後とも保護増殖事業を実施して、現在研究が進んでいる遺伝子分野から将来ウツクシマツを研究しようとする学者が現れるまで枯死させずに残していくことが我々の任務である

ご清聴ありがとうございました